

図書館友の会 ニュース

発行 岸和田市図書館友の会 《発行責任者 杉原 富人》

2026年
4月号

No. 38

図書館友の会「岸和田再発見教室」公開講演会

久米田合戦と三好政権崩壊の危機

講師：天野 忠幸氏（天理大学人文学部教授）



阿波出身の戦国武将である三好長慶は、近年「戦国最初の天下人」として評価されます。室町幕府に代わり新たな中央政権となりつつあった三好政権ですが、長慶の弟である三好実休と幕府管領家の畠山高政、根来寺が争う久米田の合戦が起こり、危機を迎えます。久米田の戦いから教興寺の戦いに至る背景から、三好氏、畠山氏、根来寺、六角氏、朝倉氏、上杉氏、足利氏の思惑を読み解いていきます。

日時：6月13日(土)13:30～16:15 参加費無料

場所：八木市民センター2階 講座室1

駐車場が狭いため、自動車でのご来場をご遠慮ください。

定員：80名(申込み先着順)

5月13日(水)10時より図書館本館（電話072-422-2142）で受け付けます。

・参考図書：『三好一族―戦国最初の「天下人」』（天野忠幸著、中公新書）

【主催】 岸和田市図書館友の会・八木地区市民協議会・岸和田市立図書館

【協力】 久米田寺・池尻町町会

2025年度 岸和田市図書館友の会 総会

日時 6月10日(水)午後1時～1時45分

場所 岸和田市立図書館(本館)3階自習室

- 内容
- ① 2025年度事業報告及び会計報告
 - ② 2026年度事業計画(案)
 - ③ 2026年度会計予算(案)

岸和田市図書館友の会は、今年創立47年になります。会では、「詩」「俳句」「短歌」「文章」「岸和田再発見」「戯曲」の6つの教室を開いています。

総会終了後、6教室の各メンバーによる教室紹介や発表を行います。(午後2時からの予定)

会員でない方も、「友の会」の活動の一端を知っていただき、交流もできればと考えていますので、ぜひご参加ください。

詩の教室 公開講座

「詩と小説の間」

～井上靖「北国」から～

講師 倉橋 健一氏

日時 7月5日(日)
午後1時30分～4時

場所 図書館本館3階視聴覚室

定員 30名
6月5日より図書館本館で受付

図書館友の会公開講座 参加者の感想

短歌教室 「短歌の海に深く潜るために」 (3月1日開催)

金川先生の教室は素晴らしい

西村 智子

岸和田駅で3人の先生をお迎えした。若い！実力歌人の皆さんであるのに、横柄さのかけらもない。清らかさを感じながら会場の図書館へ向かった。

講座開始！4つのワークショップが用意されて、次々と楽しく進んでいける。自然に歌への視野が広がり、知らない歌人のことやその歌も知り、見向きもしなかったであろう短歌に触れて感動したり、もっと自由にやればいいのだ！などと納得したりした。

牛先生が最後におっしゃった。

「金川先生の教室の素晴らしいこと、なぜなら、3年以上も指導しておられるのに、18人の教室生の歌が実に個性的でさまざまなのだ。こんな先生こそが本物の先生で、学ぶ人はどんどん上達していくはずです。」

うれしい！18人すべての人を受容し、その歌を喜び、しかし、より良い表現方法を常に提示し、歌は楽しく！と持論を展開しながら、いつの間にか高みへ連れていってる、それが、金川先生の「教え」なのだ。そして、私はそのことを誇りに思って、次々と学べている。

どの教室も笑顔であふれ、あっという間の3時間

三田 周子

「どんなサラダだと思いますか？」そんな問いから始まった。サラダ記念日に出てくるサラダを具体的に考え紙に書く。そうすることで各々のサラダ記念日が見えてくる。短歌は詠み手によって作者の思いと必ずしも一致しない。そこがまたおもしろく「なるほど～、そんな解釈もありかぁ」と思わされる。

短歌の空白部分にどんな言葉を入れるか？「穴埋め問題」に至っては最大限の想像力を使わないとダメである。なのに、その乏しさ故、ありきたりな言葉しか書けない。他の人の回答に感心し、原作を聞いて、さらに納得。

講師の先生たちが楽しく進めてくれるので、どのテーブルも笑顔で溢れ、あっという間の3時間。「言の葉」の力は大了なものだ。

この日、心に刺さった一首は穴埋め問題の嶋田さくらさんの歌。

たんぼぼの綿毛を飛ばすつもりなどなかったようなさよならでした
その空白は「さよなら」の4文字だった。

俳句教室 俳句・発句・連句 —俳句は言葉遊びから始まった—

終始和やかな雰囲気での講演会でした

関谷 雅彦

『東山茜』のペンネームで、松尾芭蕉の連句についての著書もある広田由貴子氏を講師としてお招きしました。最初に、俳句が成立するまでの歴史的な経緯と俳句の母体となった連句について、有名人のエピソード等を交えての説明があり、その後、連句のルールとその面白さについての説明がありました。連句は、前の人への句に複数人が次々と即興で句を付加して創るもので、どのような作品となるかは成り行き次第であり、このことが文芸作品とみなされなくなった一因である。との説明もありました

後半には、参加者との質疑応答の時間があり、季語について、「最近では、四季が二季になっている。」「旧暦と新暦とでは、季節感が相違する」等の質問も出て、終始和やかな雰囲気の講演会でした。

明智光秀が詠んだ発句は決意表明？

五嶋 久美子

和歌から発展し風雅で格調高い連歌が江戸時代にはユーモアや日常語を取り入れた「俳諧連歌」として庶民に受け入れられ、明治以降には連句とよばれる様になり、さらに発句が独立して「俳句」になりました。言葉遊びの連歌にも難しい規則があり即興で機知にとんだ句をつなげねばなりません。時事に精通し花鳥風月をめぐる心も必要です。言葉遊びではない連歌もありました。明智光秀が本能寺の変の直前の連歌会で詠んだ発句「時は今雨が下しる五月哉」決意表明であったのだろうか。

第4回史跡を歩くツアー 感想

(岸和田再発見教室) 谷口 富美

「第4回史跡を歩くツアー」に参加しました。

岸和田再発見教室では11月例会で、久米田合戦は1562年3月5日、三好実休が討死し、三好政権凋落の契機となった合戦と教わりました。一次資料はないけれど、『大阪府史』には三好実休が根来衆により鉄砲の被弾により深手を負って自害したと記され、総大将が鉄砲によって大敗した日本最初の合戦として位置づけられることを知りました。

以前にNHK BS番組で、鉄砲はポルトガル人により1543年、種子島に伝来し、鉄砲を入手した領主・種子島時堯(ときたか)が国産化に成功した後、雑賀衆から堺、長浜へと広がっていったと見ました。でも杉原氏の解説によると、1543年頃根来衆の津田監物がいち早く種子島に渡り、鉄砲と火薬の製法を本州に持ち帰り、「津田流砲術」を興し、根来衆は鉄砲の扱いに精通した組織的な部隊となったということです。恐るべき根来衆を加えた畠山軍に攻撃を重ねた結果、手薄になった三好本陣(久米田寺)を根来衆が奇襲し、総崩れさせました。

今回の史跡を歩くツアーで春木川を挟んでの対陣の位置関係を、見通しの効く高台から実地検分しました。それから額町にある三好実休戦没碑と、通りを隔て後ろ向きに建てられた根来左京の首塚を見て、6月の天野忠幸氏の講演会「久米田合戦と三好政権崩壊の危機」の下調べができました。

碁石山浄行寺の本堂では、お寺の縁起を解説していただき、ほっとする時間を過ごせました。古墳の副葬品と考えられる勾玉・管玉を見て碁石山古墳を歩きました。また、久米田寺の境内を順番に歩き、開祖行基を忍びました。多宝塔には仏舎利が奉納され、精霊殿には戦没者とともに玄奘三蔵の遺骨が分骨されていることを、1957年10月20日奉納当時、稚児行列された杉原氏から解説を聞くことができました。

「誰も知らない『西遊記』・玄奘三蔵の遺骨をめぐる東アジア戦後史」(坂井田夕紀子著、龍溪書舎、2013年;岸和田市立図書館蔵)を読んでみようと思います。興味深い史跡ツアーをありがとうございました。

サイエンスカフェ：日本人の起源2

—古代DNA解析の成果から—

カタリスト 杉原 富人氏

日時 5月10日(日)10時~12時

場所 市立八木市民センター2階 講座室1

定員 30名(4月10日10時より受付)

※ 図書館本館へ直接または電話(072-422-2142)で

お申し込みください。

最近、縄文人のDNA解析が進展し、そのゲノムが東アジア人の中でもユニークであることが明らかになりました。日本人の起源に関する研究成果の到達点を紹介し、参加者の皆様と意見交流します。

【主催】図書館友の会「岸和田再発見」教室

ブックフェスタ 2026 年春

◇公開「戯曲教室」 —シェイクスピア作『リチャード三世』を[本読み]する—

日時： 5月24日(日)13:30~16:00 場所：図書館本館3階会議室

ぶざまな姿のリチャードは確信犯となって悪の限りと、天賦の演技力でついにイングランド王国の王位に就く。が、王座に就くやたちまちのうちに破滅。転落の道は早い。

戯曲教室のメンバーが配役を決めて本読みする現場を公開します。声を出してセリフを読む「朗読劇」の楽しさを共に味わいましょう。

◇落語で人生を楽しもう 落語倶楽部「笑線会」による「落語」とお話し会

日時： 4月26日(日) 13:30~15:30

場所：図書館本館3階視聴覚室

いっしょに落語についてお話しませんか。おしゃべりしたいこと、聞きたいこと、なんでもOK。



地名の秘密

③⑤ 一口(いもあらい)再考(2)

京の地名一口(いもあらい)の多様な語源説(2)

③④で「疱瘡洗い」説が広まるのに、太田姫稲荷神社(現東京都千代田区神田駿河台)の縁起譚(はなし)が大きな役割を果たしたと考えられる。と書いた。私は残念ながら訪ねたことがないが、同社境内の説明板に次のように記されている。(以下、要旨)

承和5年(838)、小野篁(802~853)は遣唐使を拒否したことで流罪となる。隠岐に流される途中、海上から神が現れ、「汝の罪はまもなく許されるが、疱瘡を患うと命取りなるから我が像を造って祀れ」と告げ自ら「太田姫神」と名乗る。

篁は太田姫神の像を刻み、帰京の際、一口の里に社を建てる。時代が経ち、室町中期の武将・歌人の太田資長/道灌(1432~86)の娘が疱瘡にかかり、治すため京の一口神社に祈願したところ、完治したので、江戸城(徳川氏の江戸城とは別)に勧請し、長禄元年(1457)から城内の鬼門で祀る様になった。

慶長11年(1606)家康が、江戸城の鬼門に当たる神田駿河台に社を遷したので、この前の坂を一口坂と呼ぶようになった。篁の伝承は「なぜ一口に祀ったのか」の理由付がなされていない。それ以上に問題なのは、篁伝承は世に多いが、この話が一口のみならず、京都では全く知られていないことである。この点からも多くの人々を納得させられなかったようで、太田道灌に注目が集まる。『江戸の坂 東京の坂』横関栄一著(1981・ちくま学芸文庫版)では次のように書かれている。

一口坂(いもあらいざか)千代田区神田駿河台の淡路坂のこと

坂の上に、一口稲荷があったので、その名が移ったのである。この一口稲荷は、のちに太田姫稲荷と改称され、もと駿河台の神田川堀端の土手にあったが、今では主婦の友社の裏のほうに移されている。この稲荷は太田道灌が、長禄2年に京の一口の里から江戸城中に勧請したものである。次回へ

【参考資料】『地名と風土(17)』「特集地名研究の原点を京都で探る」より

【文責】 文章教室 浦田榮二